

**「ステンレス鉄筋技術普及小委員会（委員長：下村 匠 長岡技術科学大学工学部教授）」
の活動が『第 15 回ステンレス協会賞「優秀賞」』を受賞いたしました。**

ステンレス協会（会長：三喜 俊典日新製鋼株式会社 代表取締役社長）が主催する第 15 回ステンレス協会賞に、日本鋼構造協会ステンレス技術・標準委員会 ステンレス鉄筋技術普及小委員会（委員長：下村 匠 長岡技術科学大学工学部教授）が耐久性調査を進めている「塩害対策としてステンレス鉄筋を使用した能生大橋」が優秀賞を受賞いたしました。

能生大橋は日本海沿岸に架かる国道 8 号線の道路橋で、強い潮風や冬季波浪などの塩害による劣化が著しく、架け替えにあたっては、抜本的な対策が求められておりました。このため、最も塩害環境の厳しい 1 径間の桁の外縁部鉄筋と、現場でのコンクリート打設となる桁の連結部の鉄筋にステンレス鉄筋 SUS410 約 60t が採用されました。橋梁主桁の主鉄筋にステンレス鉄筋が採用されたのは我が国初のことです。本委員会は、今後とも、国土交通省北陸地方整備局と連携して能生大橋の耐久性を継続的に調査することにより、塩害に対するステンレス鉄筋の有用性を確認することとなっています。これらの活動がステンレス鋼の有効利用と市場開拓に繋がるものと評価され、この度の受賞となりました。



ステンレス協会 三喜会長より表彰を受ける
ステンレス鉄筋技術普及小委員会 下村 匠 委員長